

目次

I ヒロシマ 1

学習 1 原子爆弾と被爆の実相 2

学習 2 原子爆弾投下後のヒロシマ 4

学習 3 「伝える」ことの大切さ ~さまざまな伝え方~ 10

II 平和で持続可能な社会について 13

学習 1 核兵器の現状 14

学習 2 ヒロシマに対する人々の思い 16

学習 3 ヒロシマから国際社会へ 20

III 私たちの平和プロジェクト 25

学習 1 平和の実現のために自分ができること 26

学習 2 私の平和プロジェクト 28

学習 3 私が作りたい平和な未来と私の進路 30

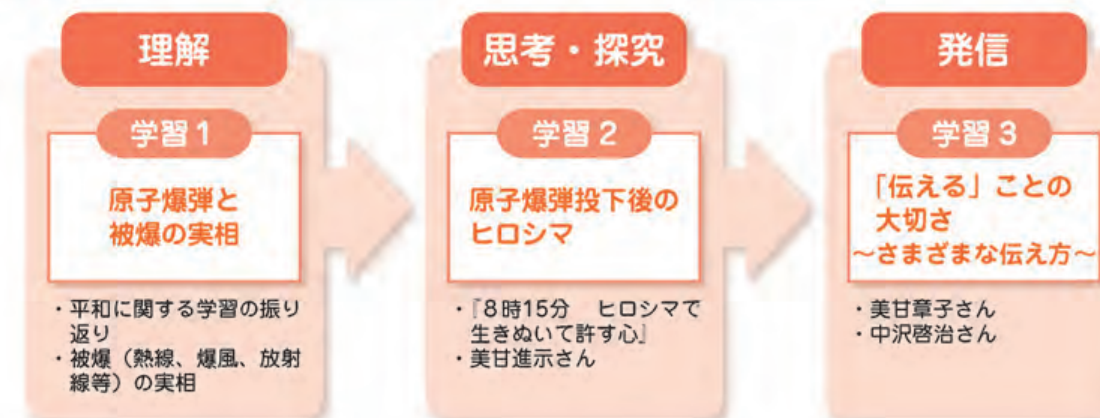
巻末資料 小学校や中学校で学習したことを振り返ろう 32

I ヒロシマ



これまでの平和学習を踏まえながら、平和とは何かについて考えを深める。また、原子爆弾投下時にヒロシマで何が起こったか、原子爆弾とその影響力について、科学的な観点から核兵器について学ぶとともに、被爆した人々の思いや生き方などを考えてみよう。

◆学習の流れ



学習 1 原子爆弾と被爆の実相

★平和に関する学習を振り返ってみよう（あなたはどのようなことを学んできましたか）。

グループワーク

「平和」をキーワードに、4～6人のグループでブレインストーミングをしてみよう。

1938年12月、ウラン235の原子に中性子を照射するとウラン原子核が分裂し、そのとき強力なエネルギーが放出されることが発見されました。続いてウランの原子核が分裂するときに2つ以上の中性を放出することが発見されました。この現象を利用し、核分裂で出る中性子が他の原子にぶつかり、次々と核分裂を引き起こす「核分裂の連鎖」を導き、そこから莫大な破壊エネルギーを作り出すという構想が生まれました。

この原理を発展させて生まれたのが原子爆弾です。



（所蔵：米国立公文書館 提供：広島平和記念資料館）

▲広島に投下された原子爆弾「リトル・ボーイ」

原子爆弾投下後「10秒」



第1段階 「放射線」 (0秒～100万分の1秒)

原子爆弾がさく裂する前。大量の中性子が発生する。

第2段階 「火球の出現」 (100万分の1秒～3秒)

100万分の1秒内
(さく裂前)爆弾内部の温度250万度まで上昇

100万分の1秒後
火球の出現 (大量のガンマ線を放つ)

100分の15秒後
温度は40万度 (太陽の表面温度の約70倍)、このとき火球の直径は20m、その0.2秒後には、直径310m

第3段階 (3秒～10秒)

熱線は3秒でおさまる。その後、衝撃波が街全体を襲う。衝撃波の速度は、3秒で1.5km、7.2秒で3km、10.1秒で4km

*爆発後20分後に、「黒い雨」が降り始めた。

*イラスト、解説はNHKスペシャル「原爆投下・10秒の衝撃」(1998年8月6日放送)より作成

熱線・爆風・放射線による被害

熱線による人的被害

人が身につけていた衣服は、強烈な熱線によって焼け焦げました。多くの人たちが、血みどろになったボロボロの衣服を、わずかに身にまとい、瓦礫の街を逃げ惑ったのです。被爆当日、約35万人の人たちが直接被爆したと推定され、約14万人の人たちが、その年のうちに亡くなったとみられています。その中には、建物疎開作業現場に動員されていた、多くの中学校などの生徒たちも含まれています。

熱線の身体に及ぼす影響

原子爆弾の爆発の閃光を爆心地近くにいた人は、黄赤色と感じ、遠くの場所にいた人は、マグネシウム燃焼のような青白色に感じたと言われています。この火球から放射された強烈な熱線は、爆心地から半径3.5キロメートルまでの地域にいた人に火傷を負わせました。特に、1.2キロメートル以内にいた人は体の内部組織にまで大きな障害を受け、このため、数日のうちに死亡する人が続出しました。

爆風による被害

爆発の瞬間、爆発点には数10万気圧という超高圧がつくれ、まわりの空気が大きく膨張して強烈な爆風が発生しました。その圧力は、爆心地から500メートルの所でさえ、1平方メートルあたり約11トンに達するという強大なものでした。このため、ほとんどすべての建物が押しつぶされ、人々も吹き飛ばされ大きな被害を受けました。

爆風の人体に及ぼす影響

爆風により、人々は何メートルも吹き飛ばされ、失神する人や負傷する人、倒れた家の下に押し込まれて圧死する人などがあいつぎました。爆風はあ

らゆる窓ガラスを砕き、人々の体内に容赦なく、無数のガラス破片をくいこませました。現在でも、体の異常を訴える人の体内からその時のガラスの破片を取り出すことがあるほどです。

放射線による被害

原子爆弾の特徴は、通常の爆弾では絶対におこらない放射線の影響によって、人体に大きな障害が加えられたことです。爆心地から約1キロメートル以内にいた人は致命的な影響を受け、その多くは数日のうちに死亡しました。放射線の影響は、被爆後の急性障害だけでなく、その後の長期にわたって様々な障害を引き起こしました。「原爆後障害」と言われる白血病やガンなど様々な症状が2・3年ないし10数年の潜伏期間を経て発生し続けるなど、被爆者の健康を今日もなお、むしばんでいます。

放射線が人体に及ぼす影響

放射線は人体の奥深くまで入り、細胞を破壊し、深刻な障害を引き起こしました。放射線による障害は、被爆直後だけでなく、何年もたって症状が現れる場合があります。放射線による影響については今でもまだ十分解明されておらず、今後も研究を続けていく必要があります。

放射線による影響が大きい人体部分

放射線が人体におよぼす影響は、放射線の種類や体のどの部分に放射線があたったかによって違いがあります。放射線は、血液などをつくる骨髄、腸の粘膜、生殖器など、細胞が活発に分裂している部分に大きな影響を与えます。

(広島平和記念資料館 Web Site より)

学習のまとめ

学習 2 原子爆弾投下後のヒロシマ

「8時15分 ヒロシマで生きぬいて許す心」から原子爆弾投下後のヒロシマの人々がどのように生きたのかについて知り、自らがどう生きていくかということを考えてみよう。



(提供/講談社エディトリアル)

▲様々な言語に翻訳されている「8時15分 ヒロシマで生きぬいて許す心」



▲本書の著者 美甘章子さん



▲美甘進示さん

私、美甘章子は被爆二世です。

本書は、世界じゅうの一人でも多くの人々に、被爆後も生きぬいた父・進示の体験を伝え、このような悲劇を二度と起こさないために、幼い頃より父から聞いた話を、父の言葉でまとめたものです。

～「8時15分 ヒロシマで生きぬいて許す心」まえがきより～

【場面1】～原子爆弾が投下される以前の美甘進示さんと父・福一さんのやりとり～

一九四五年の一月だったろうか。私は同僚とともに、短波ラジオを改造するためにいじっていた。すると突然、〈カランカラン、カランカラン〉と大勢の人が歩く下駄の音が聞こえ出した。それに続いて、女の人のきれいな日本語が聞こえてきた。

〈日本の皆さんこんにちは。この音が何だかわかりますか？ これは戦争が始まる前の銀座でにぎやかな通りを歩く人たちの足音です。ほら、あの頃はあんなに楽しかったの覚えていますか？ 駄菓子屋には飴があり、果物屋には、今みたいに腐ったみかんがほんの数個転がっているというのではなく、甘いバナナが所狭しと並んでいましたよね。懐かしいでしょう？ 楽しかった日々が恋しいでしょう？ あの頃に戻りたくありませんか？ この放送は本土に近い船から発信されています。日本がもう戦うのをやめて戦争が終わったら素晴らしいでしょう？ 平和な日々に戻りましょう！〉

私たちは仰天した。

「うわあ、このようなこと言いよるでえ！」

しかし、この放送に魅了され、興奮した私たちは、繰り返し聴き入った。

この放送を聴いてしまったことは、絶対に口外してはいけない。もし上官らに知られたら、すぐさま逮捕され、反逆者として投獄されるからだ。

後日、父にだけはこのことをそっと打ち明けた。この不思議な、しかしいかにも本当らしい放送の内容を一言一句もみせずに。

私と違い、父はちっとも驚かずにこう言った。

「敵は近づいてきよるけ、そんぐらいのことは言うじゃろうてえ」

父はいつも沈着冷静で、素晴らしい見識の持ち主だった。たとえば戦時下の英語教育についても、納得のいく意見を言った。

戦時下では、私たちは英語を話すことを禁止されていた。帝国政府が学校で敵国語を教えるのを禁じたため、高等小学校への進学を前に英語の授業を楽しみにしていた私は、とてもがっかりしたことを覚えている。

父は皮肉を言い放った。

「生徒に英語を教えんじゃと？ そよな馬鹿げたことがあるか！ 帝国がアメリカとの戦争に勝って敵国を征服する気なら、その分よけえに英語を学ばんにゃいけんじゃろうが！ 戦争に勝ったあとで敵国をどうよに統治しようと思うとるんか？ 英語を知らんかったら、アメリカ人捕虜に話もできんじやないか！」

それでも、父が自分の意見を披露するのは、自宅の中でだけ。誰が軍部に密告するかわからなかったからだ。帝国政府を批判することは重い罪だった。反逆行為は死刑。私たちは、軍部が発表する戦争の勝ち具合が実際と異なると何となく察してはいたが、どんな疑いも胸の中に秘めておかねばならなかった。建物疎開命令にしても、疑問を差しはさむなどは言語道断で、ただひたすら従うしかなかったのだ。

(朗読：小野 紗季さん (広島中等教育学校2期生))

★この場面を読んで感じたことや心に残ったこと、初めて知ったことなどについて、グループで話し合ってみよう。

【場面2】～美甘進示さんと父・福一さんが、自宅があった場所まで歩いて向かう～

栄橋まであと数百メートルのところまで来た。父に叱り飛ばされ、励まされながら、私はなんとか数メートル歩いては止まったりを繰り返していた。何分もおきには身を横たえて、痛みで疼く身体を休めなければならなかった。そんなとき、父は驚くべき忍耐力を発揮して、私が立ち上がるのを辛抱強く待ってくれた。

「もう歩けんよ。ちょっとここで休ませてえや」

栄橋を目前にして、私はまたしても地べたにへたり込んだ。頭の中は空っぽだ。歩き出す力はもう残っていない。足を無理やり動かすことすらできない。

それでも父は容赦しなかった。

「陽が暮れる。起き上がれ、進示」

父の声が、また私の中の何かを動かす。父が私を駆り立てるたびに、あるわけがないと思っていた力がほんの少しだけ出てくる。父に命じられるたびに、起き上がって、前に向かってよろめきながら進む。何度も同じことの繰り返し。

進み方があまりにも遅いので、父はいらいらしに違いない。しかし、一度も痙攣を起すことはなかった。ただひたすら、物事をやり遂げる決意と私を救おうという意志を示した。

ちょうど陽が沈む頃、栄橋に着いた。

広島は川の町だ。三日前まで、市内を流れる川は美しく、水が澄んでいた。栄橋の下には京橋川が、きらきらしながらゆっくりと流れていたものだ。しかし今、その川を隙間なく覆っているのは、裸で焼け焦げた死体、水浸しで膨れあがってぶつかり合いながら流れている死体だった。

橋の上もまた同じで、人間の身体で覆われていた。ほとんどは死体だった。そうでなければ虫の息だった。

かろうじて生きている人たちもいた。焼けただれか黒焦げになったりして髪の毛を逆立て、うろろうろしていた。小川のそばで見たのと同じで、誰もが空を見つめ、催眠術にかかったような表情をしていた。

命尽きた身体をなるべく踏まないように注意して橋を渡るには、途方もない時間がかかる。私はたびたび、膝の力が抜けて座りかけた。そのたびに父は怒鳴り、私を前に押し続けた。

「だめじゃ、止まるな！ あとちょっとで家じゃ」

— 中略 —

島津家の倉庫に身を寄せた一家は、私たちを倉庫の中へ招き入れ、泊まっていけと言ってくれた。私の怪我を見て、ショックを受けているのが分かった。

中に入るとすぐに、私は横になった。疲労困憊のあまり、ひと言も発することができなかった。傷は相変わらず疼いていた。

それでも、やっと安全なところでじっとしてられる。何度も起き上がっては動き回らなくて済むのだ。屋根があり、壁に囲まれ、この三日間に過ごしたどの場所よりも安全だと思うと、たまらなくほっとした。私は目を閉じた。

父と夫婦が話しているのが聞こえた。父は京橋川へ逃げたことや大火事と竜巻のことを話していた。東練兵場にいた大勢の怪我人のことや、東照宮の階段を下りようとして出くわした悪魔のような兵士のことも話した。

こうした出来事を、父が他人事のように淡々と話していることに驚いた。父は、自分たちの体験を、まるで観客だったかのように詳しく話すのだった。これらの恐ろしい出来事からすでに自分を切り離してしまっているかのようで、不気味でさえあった。

突然、あることに気づいた。ある考えが私の脳天を突き、びっくりした。

生きている！ 大怪我をしてはいるが、本当にまだ生きているんだ！

この三日間、将来のことなどを考える余裕は全くなかった。一瞬一瞬を生き長らえることに必死だった。心の奥底のどこかで、自分がここまで生き延びられると思っていなかった。

(朗読：小野 紗季さん (広島中等教育学校2期生))

★この場面を読んで感じたことや心に残ったこと、初めて知ったことなどについて、グループで話し合ってみよう。

【場面3】～小屋浦小学校にて美甘進示さんが治療を受ける～

唇は渴いて割れ、腰と血で覆われている。ほとんど口を開けることもできない。右の耳が熱く、ずきんずきんと痛みが脈打ち、今にも爆発するのではないかとすら思った。頭を少しでも動かすと、全身に暴力的な激痛の波が走る。背中の皮膚はほとんどなかった。大部分は燃え尽き、ほかはぼろぼろの破片になって抜け殻のように落ちていたのだ。だから生の身が刺すような痛みを感じていた。

しかし、そうした痛みをせせら笑うほどの別格の痛みがあった。何日も動けないまま固い床や地面に寝ていたために生じた背中の中ずれ。それは、まるで潰瘍のように深く肉を侵食し、骨まで届く激痛をもたらしていた。この痛みのせいで朦朧となり、正気を失いそうだった。

だが、逃れることは一切できない。私は全く動けなかったのだ。私の身体は痩せ衰え、ほとんど骨と皮しか残っていなかった。もともと私は細身だった。爆撃前には戦時中の食料不足もあって、身長は百七十三センチなのに、体重は四十五キロぐらいしかなかった。このころはもっと減っていたに違いない。私の身体には、固い床との間のクッションになる脂肪がついていなかったのだ。

床ずれのことなど、誰も気がつかないだろうと思っていた。身体にはたくさんの傷と火傷がある。床ずれにまで思いを寄せる人などいないだろう。

ところが、気がついてくれた人がいた。小屋浦の村から重傷者の世話に来てくれていた婦人会の一員。質素な着物をきた、三十代後半か四十代前半の女性だ。とても冷静な人で、私の怪我を見ても動揺しなかった。落ち着いた手で朝食のスープを飲ませてくれた。実は私は食欲はなかったが、親切に食べさせてもらえることがうれしかった。彼女は、私が苦勞しながらスープを飲み込むのを見つめていた。

その女性がゆっくりと私の傷に近づいて、覗き込んだときのこと。あまりにもひどい床ずれを見付けて、「こりゃあいけん」と驚きの声をあげた。食器を横に置き、床の上で何とか楽になれるようにと私の身体を動かそうとしたが、ひどい傷を刺激するわけにもいかず、動かすのをやめた。

「このままじゃいけんわ。家に座布団があるけ、持ってきてあげるけんね」

彼女はそう言い置いて立ち去った。

私は、「ありがとう」という気持ちを示すこともできない。ただ、私の目に浮かぶ感謝の心を読み取ってくれればと願うだけだった。

その女性が観音様のように見えた。この約束で、私の気持ちは希望で膨らんだ。この最悪の痛みから逃れられる。恐怖と死に取り囲まれている中で、こんなやさしさや善意、寛容性が存在するとは。ただただこの観音様の帰りを待ちさえすればいいのだ。

私は延々と待った。女性が立ち去ると同時に、いつ帰ってくるのかと思い始めた。一分が、十分にも百分にも感じられた。

この床ずれの痛みからやっと逃れられると思うと、待っている間の痛みが余計ひどく感じられた。右にも左にも身体を傾けることができない。自分の周りがどうなっているのか見ることもできない。ただただ真上の擦り切れた天井を見ることしかできない……。

いつしか、天井に優しい友達の顔を描いていた。その友達が一人ぼっちの私を慰めてくれ、寂しさを紛らわせてくれる。痛みを分かち合ってくれる。観音様が帰ってくるのを待つ間、私はこの友達に話しかけていた。

昼になっても女性は帰ってこなかった。もしかしてあれは夢だったのだろうか、と思い始めた。私は、たびたび意識を失ったりもしていたので、あの落ち着いた優しい女性は自分の想像が作り出した幻なのかもしれないと思った。

午後になっても戻ってこない。やがて私は、帰宅したとたんに彼女は私のことなどすっかり忘れてしまったのだと思い始めた。日常の忙しさに気をとられ、座布団のことなど頭から抜け落ちてしまったに違いない。とんだ欺瞞じゃないか！

夕方になる頃には、暗い怒りの気持ちを抱くようになった。重傷で動けないことへの激怒。一人ぼっちであることへの激怒。忘れられてしまったことへの激怒。

この弱りきった状態で、私は親切と安堵を約束した見知らぬ人に弄ばれ、そして裏切られたのだ。私の気持ちを残酷にも弄んだあの女が憎くてしょうがない。きっと今頃、自分の家族とラジオを聴きながら夕飯を食べているに違いない。私のことなど、もう頭をよぎりもしないだろう。きっとあの女は、夏の風のような軽い口約束をして、風が過ぎるとともに忘れてしまうような奴なんだろう。

私は希望のすべてを託したのだが、もう二度と会うこともない。

「どうしたらこうに見捨てることができるんや？」

「どよな人間がこよなことをするんか？」

天井の友達に訊いてみたが、彼は答えてくれない。

突然、本当に突然、その女性が私のそばに現れた。手に二枚の座布団を持って。

戻るのが遅くなったことを一生懸命謝っていた。帰宅したら、胸を患っている家族がひどく苦しんでいたの
で、医者を呼んだり看病したりして遅くなったのだという。「本当にごめんなさいね」と言いながら、彼女は
背中と床の間に座布団を置いてくれた。柔らかく優しい手で、私の背中を冷たい床から数センチだけ浮かせ、
その下に座布団を押し入れてくれたのだ。

朝、この女性のことを観音様だと感じたことは、間違っていなかったのだ。なのに……。

先ほどまで抱いていた怒りは、羞恥心へと変わった。こんな親切な人に対して、なぜあんな憎しみを抱いた
のだろう。

身体の下に敷いてもらった薄い座布団が、傷口への鎮痛剤のように感じられた。有頂天になるほどの安堵
だった。まるで雲の上に浮かんでいるように思えた。私は天井の友達に自慢した。ああ座布団は本当に気持ち
がいい。

そしてまた、爆発のあとに私たちに強いられた二つの選択肢のことを考えた。戦慄と絶望しかない悲惨な状
況で、人間は善と悪のどちらに転がるのか？ 私は、仏様のほうへ目盛りが寄っていくように感じた。

(朗読：小野 紗季さん (広島中等教育学校2期生))

参考資料：英語での表現と日本語での表現を比べてみよう。

(以下の英文は、場面2の英語版です。)

8:15 A TRUE STORY OF SURVIVAL AND FORGIVENESS FROM HIROSHIMA

The family invited us into the warehouse to shelter for the night. I could tell that they were shocked by our wounds. We gratefully accepted.

Upon entering the warehouse, I immediately lay down. I was too exhausted to utter even one word. Finally, I could rest in a safe place without having to get up and move somewhere else. My wounds throbbed, but I also felt intense relief at finally being enclosed behind walls, with a roof overhead, in a place that seemed safer than any we'd been in the past three days. I closed my eyes, and let the conversation of the adults wash over my ears.

I lay listening to my father talk for a long while. He and the couple were sharing stories of what had happened to us all in the blast. I heard my father tell them about fleeing to the river, about the huge fire and the tornado. He told them of the injured masses convening at the drill ground, and of our terrible encounter with the soldiers as we'd attempted to descend from Toshogu Shrine.

I marveled at my father's ability to speak of these events as if he had not been a part of them. It felt bizarre to hear him recount our journey almost as if he were a spectator. He sounded like he had already detached himself from the horror. It was strange and disturbing to me. And yet I understood. My father, practical and resourceful, was doing what he had to do to stay alive. In order for us both to stay alive.

I was suddenly struck by a thought that hit me forcefully, and with great surprise: *I am alive*. Wounded, but really and still alive. There had been no time to think about the future in these past three days, so consumed were we with surviving in the present moment, one to the next. But somewhere in the recesses of my mind I hadn't believed that I would make it this far.

島津家の倉庫に身を寄せた一家は、私たちが倉庫の中へ招き入れ、泊まっていけと言ってくれた。私の怪我を見て、ショックを受けているのが分かった。

中に入るとすぐに、私は横になった。疲労困憊のあまり、ひと言も発することができなかった。傷は相変わらず疼いていた。

それでも、やっと安全なところでじっとしてられる。何度も起き上がっては動き回らなくて済むのだ。屋根があり、壁に囲まれ、この三日間に過ごしたどの場所よりも安全だと思うと、たまらなくほっとした。私は目を閉じた。

父と夫婦が話しているのが聞こえた。父は京橋川へ逃げたことや大火事と竜巻のことを話していた。東練兵場にいた大勢の怪我人のことや、東照宮の階段を下りようとして出くわした悪魔のような兵士のことも話した。

こうした出来事を、父が他人事のように淡々と話していることに驚いた。父は、自分たちの体験を、まるで観客だったかのように詳しく話すのだった。これらの恐ろしい出来事からすでに自分を切り離してしまっているかのようで、不気味でさえあった。

突然、あることに気づいた。ある考えが私の脳天を突き、びっくりした。

生きている！ 大怪我をしてはいるが、本当にまだ生きているんだ！

この三日間、将来のことなどを考える余裕は全くなかった。一瞬一瞬を生き長らえることに必死だった。心の奥底のどこかで、自分がここまで生き延びられると思っていなかった。

★この場面を読んで感じたことや心に残ったこと、初めて知ったことなどについて、グループで話し合ってみよう。

★三つの場面を通して、心に残った場面やセリフを書いてみよう。原爆投下後のヒロシマで生きぬいた人たちの人生から何を学び、あなた自身はこれからどのように生きていきたいと思えますか。グループで話し合ってみよう。



学習 3 「伝える」ことの大切さ ～さまざまな伝え方～

被爆二世が伝えること ～美甘章子さんからのメッセージ～

QRコード



▲美甘章子さん

1961年、広島市生まれ。両親とも被爆者で、幼いころから原爆と戦争の悲惨さを身近に感じて育つ。広島大学教育学部卒業後、アメリカに渡り、カリフォルニア心理学専門大学院（現アライアント国際大学）サンディエゴ校で多文化臨床心理学を学ぶ。

現在、心理学博士として「US-Japan サイコロジカル サービス」代表、「サンディエゴ・ウィッシュ：世界平和を願う会」代表を務め、世界の平和とヒューマニティーの向上を目指す活動を続けている。



「8時15分 ヒロシマで生きぬいて許す心」は、美甘章子さんがエグゼクティブ・プロデューサーを務め、2020年にアメリカで映画化された。2021年には、「8時15分 ヒロシマ 父から娘へ」というタイトルで全国公開され、広島でも2021年8月6日に公開された。

Point!

美甘章子さんはどのような思いで平和を発信し続けているのか、なぜ日本ではなくアメリカを拠点として活動しているのかを考えよう。

こだまかつし 児玉勝司さんが美甘さんにインタビューをして感じたこと

〈児玉勝司さん（広島テレビ放送元アナウンサー）のコメント〉

インタビューをして伝わってきたのは、美甘さんの溢れる“熱量”です。ご両親の壮絶な体験を残す意志、さらにその体験を未来につなぐ使命……。私たちは、様々な思いや経験を持つ人の声にもっともって耳を傾け、知らなかったことに出会い、心を動かし、視野を広げていきたいものです。

「ネット社会」はとても便利です。自分のお気に入りの情報はクリックひとつでアクセスでき、AIが勝手に心地よい話題を選んで届けてくれます。でも、自分にとって“居心地がいい世界”は、いつの間にか自分と考えの違う人を排除し、物事の一面しか見えなくしてしまう危険があります。そんな世界は再び、人と人が、国と国とが憎しみあい、戦う時代に繋がるかもしれません。

美甘さんの“熱量”は、もっともっと広い世界を見て、知って、考えることを、私たちに呼びかけています。

★美甘章子さんのインタビューを見て感じたことや、心に残った言葉をメモにとろう。



被爆体験者が伝えること ～中沢啓治さんからのメッセージ～

インターネットでは
公開できません

中沢啓治さんは、1939年広島市に生まれ、小学校1年生の時に原爆に遭います。中学校を卒業後、看板業に就く傍ら漫画を勉強し、1961年上京、漫画家としてスタートします。1968年、初めて原爆をテーマにした「黒い雨にうたれて」を発表、その後、次々と原爆や戦争をテーマにした作品を発表しました。

「週刊少年ジャンプ」に連載された「はだしのゲン」は、子どもたちの支持を大きく集め、戦争と原爆の実態を広く世の中に知らしめました。日本ジャーナリスト会議奨励賞を始め、イタリア・ゴールデンバルーン賞、第14回谷本清平和賞、広島市民賞など数々の賞を受賞し、アメリカでは、ダラス市名誉市民の称号を授与されました。

「はだしのゲン」は、中沢啓治さん自身の被爆体験をもとにした漫画で、1973年に連載が始まりました。

作者の分身である主人公の中岡元（ゲン）が、原爆で家族を失いながらも、戦後をたくましく生き抜いていく姿が描かれています。これまでに、英語、ロシア語、韓国語・朝鮮語、フランス語など、世界の様々な言語に翻訳され、世界を駆け巡っています。



平和教育特別講演会（2012年1月10日）記録より

漫画家になりたい

僕は、絵を描くのが好きだった。小学校3年生から漫画家を目指していた。手塚治虫さんにあこがれていて、絶対に漫画家になるって決めていた。手塚さんの漫画を一生懸命模写した。画用紙を買うお金がなかったから、映画のポスターの裏を利用して…(略)…漫画を描いては投稿したね、17歳の時にはじめて入選して、す

ごくうれしかった。絶対に漫画家になると思っていたね。…(略)…お袋が脳内出血で倒れたんです。原爆病院に7年間入院しました。お袋にどうしても東京に出るって話して、22歳の時、思い切って東京に飛び出した。

お袋の死

僕は幸いデビューが早かった。なんとか漫画家としてやっていけるかなあと思っていたら、いきなり電報がきた、「母死す」。それであわてて広島に帰った。お袋はもう棺桶くわんぼくに入っていた。僕はお袋に感謝しましたよ。「お袋がいなかったら、僕はこうやってまともに生きていなかった。ありがとう」ってね。翌日、広島駅の近くの火葬場で焼いた。…(略)…僕は驚いた。骨がないんです。必死になってかき回しても、骨らしい骨がないんだ。頭にきた。「原爆は人間の骨までとって行くのか!」……

決意

それまで僕はね、東京では、原爆を受けたことは言わなかったんですよ。原爆を受けたことがわかって、人が近寄らないんです。「放射能がうつる」って言うんですよ。…(略)…僕は原爆から逃げていた。だけど、お袋の骨がなかったとき、カーッと頭にきて、…(略)…「おれは、もう黙ってないぞ、自分に何ができるか、自分には漫画しかない」「漫画で原爆をとちめてやろう」って気持ちになって、1週間で原爆をテーマにした第1作「黒い雨にうたれて」を描いた。

役目

僕は次の世代が、平和がどんなに大切かということを本当にわかってくれたら、僕の役目は終わるんですよ。……戦争は絶対にしちゃいかん。……核兵器を絶対になくしていかなくちゃいけない、そういう世代を育てなくちゃいけない。……漫画も一つの役目を果たしているんじゃないかと、僕は思っているんですよ。そう自負しているんです。

★あなたは、「誰に」「どのように」「どんなメッセージ」を発信していきますか。考えてみよう。

	誰に:
	どのように:
	メッセージ:

II 平和で持続可能な社会について



国際社会の諸課題について、多面的・多角的に探究し、持続可能な社会に参画するという観点から、国際社会におけるヒロシマの役割について考えてみよう。

◆学習の流れ



学習 1 核兵器の現状

今日、核兵器は世界に拡散しています。このことは、人類すべての安全や生活に関わる問題でもあります。

ここでは、「核兵器の現状」、「核兵器に対する国際社会の対応」を中心に学習していきます。

●戦略兵器削減条約

1991年（平成3年）7月31日にアメリカとソ連の間で戦略兵器削減条約（START）が結ばれ、2国間の戦略核兵器の削減が始まりました。アメリカのバラク・オバマ大統領が2009年（平成21年）4月5日、チェコのブラハで「核兵器のない世界」の実現を訴えた後、アメリカとロシアは、さらなる削減に合意し、2010年（平成22年）4月8日に新戦略兵器削減条約（新START）に署名しました。同年5月に開かれたNPT再検討会議では、核兵器禁止条約の交渉開始が提案され、核兵器の非人道性に基づき核兵器の廃絶や非合法化を求める国際的な動きが起きました。今後も国際社会が協力し核兵器の廃絶をいっそう推し進めていく必要があります。（広島平和記念資料館 Web Siteより）

「戦略兵器削減条約（新START）」をキーワードにインターネットで調べて、はじめて知ったことや気づいたことについて話し合ってみよう。

●核兵器禁止条約（TPNW）

2021年1月22日に発効した、核兵器の開発や製造、保有、使用を全面的に禁じる初めての国際条約である。なお、非締結国への法的な拘束力はない。

○核兵器禁止条約の概要

国際社会における核兵器の非人道性に対する認識の広がりや核軍縮の停滞などを背景に、平成29年（2017年）7月7日、「核兵器禁止条約」が国連加盟国の6割を超える122か国の賛成により採択され、多くの国が核兵器廃絶に向けて明確な決意を表明しました。同年12月には、条約採択への貢献などを理由に「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ICAN）がノーベル平和賞を受賞しています。

平成29年（2017年）9月20日から各国による署名が開始され、令和2年（2020年）10月24日に、批准した国が発効要件である50か国に達しました。条約は、批准から90日後となる令和3年（2021年）1月22日に発効を迎えました。

○条約の主な特徴

(1) 被爆者（ヒバクシャ）に言及（前文）

条約は、被爆者（ヒバクシャ）の苦しみと被害に触れ、人道の諸原則の推進のために、核兵器廃絶に向けて被爆者などが行ってきた努力にも言及しています。

(2) 核兵器の開発、実験、使用、使用の威嚇などを禁止（第1条）

条約は、核兵器の開発、実験、製造、取得、保有、貯蔵、移譲、使用、使用の威嚇などの活動を、いかなる場合にも禁止しています。

(3) 核保有国の加盟についても規定（第4条）

条約は、定められた期限までに国際機関の検証を受けて核兵器を廃棄する義務を果たすことを前提に、核保有国も条約に加盟できると規定しています。

(4) 条約について話し合う会議を開催（第8条）

条約は、その運用などについて話し合う締約国会議や再検討会議の開催について定めており、いずれの会議にも、条約に加盟していない国やNGOなどをオブザーバーとして招請するとしています。

（広島市 Web Site より）

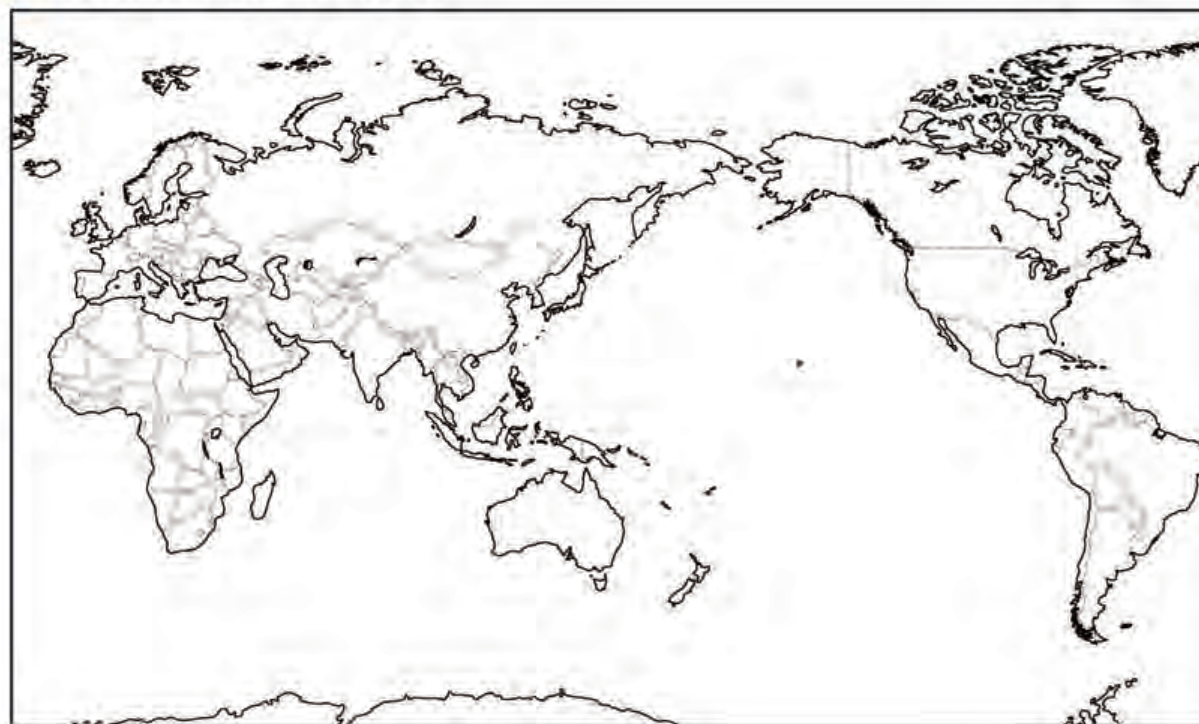
グループのメンバーと協力して、核弾頭数や保有国などについてインターネットで調べてみよう。

国名	保有核弾頭数
米 国	
ロシア	
英 国	
フランス	
中 国	
インド	
パキスタン	
イスラエル	
北朝鮮	
合計	

【世界 保有核弾頭数】というキーワードで検索をしてみよう。また、そのデータの発信元を、下のスペースに書いてみよう。

※保有核弾頭数は、実戦用としてミサイルや基地に配備されている弾頭のほか、備蓄中、解体待ち、実戦使用する前に準備を要する弾頭を含む数です。

●核兵器保有国に色をつけてみよう。



★核兵器の現状について分かったことをまとめよう。

学習 2 ヒロシマに対する人々の思い

ヒロシマに触れた人々の思いをもとに、世界に伝えたいことを考えよう。

●市立高校を卒業した先輩の思い

被爆体験証言者 李 鍾根
70回生 曾根 沙也佳



▲曾根沙也佳さんの作品「閃光」 平成29（2017）年度制作 油彩画（F15号）

描いた場面

猿猴川にかかる荒神橋に入ったその時、突然空に黄色みがかった光線が2、3秒間漂っていた。（爆心地から約1.8kmの地点）

生徒のコメント

李さんの視界を染めた、黄色がかった閃光は、何度も何度も色を重ねて描きました。見たことがない色を想像して、李さんの記憶と擦り合わせながら、当時の光景に近づけることは簡単なことではありませんでした。この絵を制作することで、私自身の平和についての考え方が大きく変わりました。

もし私がこの絵を描いていなければ、原子爆弾の閃光が黄色がかったことも、「原爆被害」が一言ではくれないということも、知ることができなかったと思います。

原爆の記憶が失われてしまうのは、本当に恐ろしいことです。この「閃光」を、もう誰もみることがないように、私はこれからも行動し、伝え続けていきたいです。

被爆体験証言者のコメント

まず、曾根沙也佳さんにありがとうございます。自分にも描けない原子爆弾の閃光を描いてくださいとお願いしました。何度も打ち合わせをする、何度も描き直す。すまないと思いながら頼んでいました。

今日、絵を見せて頂き、出来た、これだと思いました。苦しい時もあったと思います。よく耐えて下さったことと思います。心からお礼を申し上げます。嬉しいです。

（所蔵/広島平和記念資料館）

印象的だった出来事

「原爆の絵」制作終了後（高校3年生の7月）に西日本豪雨の被害の影響でしばらく学校に通えませんでした。その時、当たり前の日常が一瞬で壊されたことへの恐ろしさを実感しました。その時、比べ物にはなりませんが、私の描いた「原爆の絵」と現状をふと重ね合わせていました。原爆は自然災害とは違い、人の手で防ぐことができます。原爆のような、平和な日常をおびやかすものはやはりあってはならないと思いました。

当時の心境

負傷した生々しい人物や情景などを描く生徒が多い中、私は原爆投下直前の風景を描くことになりました。大きな音が鳴り、すべてのものが破壊されていく一歩手前、突然の閃光で空がオレンジ色に包まれた瞬間を切り取った絵です。自分が見ていない色を再現するのが難しく、証言者の方から「もう少し違う色で」とたびたび修正がかけられました。私の描きこみが進むにつれ、証言者の方の記憶も徐々に鮮明になり、アドバイスが増えていきました。絵を完成させるまでに何度も修正を重ね大変でしたが、自分が絵を描くことによって証言者の方の記憶を呼び覚ましていることにやりがいを感じるようになりました。8時15分にこのような色に包まれていた事実を伝え、物静かな絵ですが色んなことを感じ取ってもらいたいと思いました。

制作を通して学んだこと・変化したこと

被爆体験者である私の祖父は、辛かった被爆の体験にずっと蓋をしていて、だれにも話さないまま時間が経ってしまいました。「辛かったけど、長い間塞いできたから忘れてしまった」と言われたときはショックでした。そのような、表に出てこない原爆の記憶は多数あると思います。私が担当した証言者の方は、自分の被爆体験について多くのことを語ってくれました。私は、「この絵を完成させないと、証言者の方が見た色を再現する人はいない」という使命感を感じ、制作を進めました。今のうちに被爆者の方から証言を聞いておくことの大切さを感じるようになりました。

高校生に伝えたいこと

私たちが、実際に被爆をされた方々から直接体験を聞くことができる最後の世代です。忘れ去られてはいけない記憶に耳を傾け、向き合い、繋ぎ、伝えることができる人が増えたらいいと思います。他にも様々なアプローチの仕方があるのではないのでしょうか。行動力・表現力のある人が増えたら、世の中を変えていくことができると思います。

●ヒロシマで活動を続けた沼田鈴子さんの思い

インターネットでは
公開できません

私はヒロシマを学んでくださるたくさんの方々のお会いに恵まれ、旅の疲れもみせず、目を輝かせて真剣に耳をかたむける小さな子どもたち、中学生、高校生、大学生、大人、諸外国の方々との姿に接し、たくさんの方を私は教えられ、交流も増えますことを幸せに思うとともに、生きがいを感じ「明日に昇る太陽」に希望と勇気を与えられております。

証言は、私の平和の一粒の種まきです。多くの方々が手を取りあって一粒ずつの種まきの輪をひろげましょう。美しい地球、素晴らしい未来のために、身近なところから、心の種を増やしてまいりましょう。最高の幸せは平和であること、無知であることはおろかなことにつながります。平和なときこそ、真実をみつめ、狂っている世の中、社会に目を向け、耳をかたむければ、自分自身の行動が見えるのではないのでしょうか。国と国が理解し、民族と民族が信頼し、愛し合えば、心と心は通じあうのではないのでしょうか。世界すべての人達が平和で幸せに安心して暮らせるように願いながら、歴史への旅を続けています。訪問しているところ

ろは、アメリカ各地、ヨーロッパ各地、ソ連、マレーシア、シンガポール、ペラウ、フィリピン、ベトナム、アウシュビッツ、中国、韓国、パナマ、沖縄で、韓国、沖縄は毎年訪ねています。

最後に、出会—感動—発見—出発の四つの言葉を、自分の日々の行動につながるものとしております。

（広島平和記念資料館 Web Site）

●ヒロシマに思いを馳せた人たちは



フロイド・シュモア

(寄贈/ブルックス・アンドリュース 所蔵/広島平和記念資料館)

フロイド・シュモア氏 (1895年-2001年) は、米国シアトルに住み、ワシントン大学の森林学の講師で、戦時中には日系アメリカ人の支援を行っていました。広島・長崎への原子爆弾の投下に大きな衝撃を受け、深く心を痛めたシュモア氏は、被爆した人々のために何かできることはないかと思ひ悩み、住まいを失った広島の人々のために、皆が協力して家を建てる計画を考えました。そして1948年 (昭和23年) に初めて広島を訪問し、救援活動を行うとともに、計画の実現に向けて準備を進めました。

「広島の家」と名付けられたこの計画は、募金活動や団体からの支援によって世界中から4,300ドルの資金が集まり、1949年 (昭和24年) 7月、シュモア氏は3人の仲間とともに、ガラスやくぎなどの建築資材を携えて日本へと向かいました。

(国際平和拠点ひろしま Web Site)

インターネットでは
公開できません

「中間子理論」を確立した日本初のノーベル賞 (物理学賞) 受賞者。1954 (昭和29) 年アメリカの水爆実験に衝撃を受け、以後、世界科学者会議 (バグウォッシュ会議) を開催するなど核兵器と戦争の廃絶を訴え続けました。

「私は、真理の探求ということを誇りに思うし、自信を持っているし、私は一生それを貫いてきた。何の悔いもない。けれど、8月6日のあの事件を聞いたときに、科学者は科学者としての自分に対する責任があることを知った。」 (広島平和記念資料館 Web Site)

●来広した人のメッセージ

マザー・テレサ (1910~97) [1984年11月23日来広]

マザー・テレサのコメント

「愛の業(わざ)は平和の業(わざ)である。神は互いに愛するようになるために我々をお作りになった。我々がお互いを愛すれば、我々は共に平和に生きることができるようになれる。私たちは祈りにおいて神と一体になる必要がある。原爆投下は真に悪の行為である。このようなことが二度と決して起こらないように祈りましょう。神が私たち一人ひとりをお互いに愛するように、お互いに愛し合ひましょう。」

(広島青少年センター主催「マザー・テレサ講演と映画の集い」、
「愛と平和」の講演より)

マケドニアに生まれ、インドのコルカタのスラム街などで活動した、カトリックの修道女。孤児・病人・死にゆく人といったもっとも貧しい人々への献身的な奉仕活動に打ち込み、「孤児の家」「死を待つ人の家」などをつくる。1979年にノーベル平和賞を受賞。

インターネットでは
公開できません

ヨハネ・パウロ二世 (1920~2005) [1981年2月25日来広]

ヨハネ・パウロ二世のコメント

「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。この広島町、この平和記念堂ほど強烈に、この真理を世界に訴えている場所はほかにありません。」

もはや切っても切れない対をなしている二つの町、広島と長崎は、「人間は信じられないほどの破壊ができる」ということの証として、存在する運命を担った、世界に類のない町です。

この二つの町は、「戦争こそ、平和な世界をつくろうとする人間の努力を、いっさい無にする」と、将来の世代に向かって警告しつづける、現在にまたとない町として、永久にその名をとどめることでしょう。」 (平和記念公園での「平和アピール」より)

インターネットでは
公開できません

ポーランド生まれ。世界平和と戦争反対への呼びかけと、数々の平和行動を行った第264代ローマ教皇 (在位1978~2005)。

潘 基文 (1944~) [2010年8月6日来広]

潘 基文のコメント

「65年前のきょう、暗黒の日の恐怖に襲われた皆さんは、苦悩や怒り、絶望の中へと沈みこんでしまっていたかもしれません。」

しかし、皆さんはまったく違うメッセージを世界に流しました。皆さんにしかできない話を伝えてきたのです。それは、皆さんの家族や友人、最愛の人々が死んでゆく様子を目の当たりにした話であり、皆さんの美しい町が消え去る姿を目撃した話であり、その後何年にも、また、何世代にもわたって病氣や子どもへの後遺症におびえながら暮らす様子を伝える話でもありました。

皆さんは私たちに、核兵器が人間にもたらす大きな犠牲について、真実を克明に語られました。そのうえで、決して忘れることのないよう、私たちに求めたのです。そして何よりも、皆さんは私たちに行動を求めました。行動すること、そして皆さんと手を携えてゆくこと。それこそ私が今ここに理由です。

皆さんはそうすることで、広島を越える存在となりました。世界市民となった皆さんの声は、世界各地に響き渡っているのです。ノー・モア・ヒロシマ。ノー・モア・ナガサキ。決して同じ過ちを繰り返してはならない、と。」 (広島での歓迎セレモニーにおける講演より)

韓国出身。大学卒業後、外務省(外交通商省の前身)入省、アメリカ駐在公使、オーストリア駐在大使、金大中政権外交通商省次官、盧武鉉(ノ・ムヒョン)大統領外交補佐官、外交通商相を歴任。2007年1月から2016年12月まで第8代国際連合事務総長。

インターネットでは
公開できません

★ヒロシマに触れた人々の思いから感じたことをまとめて、世界に伝えたいことを考えよう。

学習 3 ヒロシマから国際社会へ

被爆地広島からは、広島市や広島県をはじめとする自治体、学校、市民団体などの様々な方面から平和推進や核兵器廃絶に向けての取組やメッセージの発信が行われています。

ここでは、様々な取組やメッセージから、ヒロシマから国際社会へ伝えたいことを知るとともに、ヒロシマの役割について考えてみよう。

ヒロシマの取組

(1) 広島市の取組

広島市は、長崎市と連携し、被爆都市として「核兵器のない世界の実現」に向け、平和市長会議の加盟都市など国内外の都市やNGO、国際連合などと連携し、核兵器の廃絶を世界に訴え続けています。

また、国際平和文化都市広島市は、「平和市長会議の充実強化」と「核兵器廃絶に向けた国内外の世論の醸成と市民の活動に対する支援」に取り組んでいます。

具体的な事業例として、原爆死没者の霊を慰めるとともに、恒久平和の実現を祈念する「平和記念式典」、世界に「和解」の道を提示してきたヒロシマの今後の行動などについて討論する「国際平和シンポジウム」、広島東洋カープの試合で平和をアピールする「ピースナイター」など、数多くあります。

(2) 広島県の取組

広島県は、核兵器廃絶に関する取組として、核兵器廃絶に関する広島県宣言などを行ってきました。

また、2011年10月には、核兵器廃絶のプロセスや復興・平和構築などの課題について、国際平和実現のための取組や広島が果たすべき役割を、「国際平和拠点ひろしま構想」として、取りまとめました。

国際平和拠点としての広島の役割 (「国際平和拠点ひろしま構想」から抜粋)

- ◇核兵器廃絶のロードマップへの支援
- ◇核テロの脅威の削減
- ◇平和な国際社会構築のための人材育成
- ◇核軍縮、紛争解決、平和構築のための研究集積
- ◇持続可能な平和支援メカニズムの構築

(3) 児童・生徒の取組

◇こどもピースサミット



小学生による作文募集や、「平和の歌声・意見発表会」の開催、そして、生命の尊さと一人一人の人間としての尊厳をテーマに「平和への誓い」を発信します。

◇中学生による「伝えるHIROSHIMAプロジェクト」



平成27年度、被爆70周年記念事業としてスタートし、広島市内の中学生が、広島を訪れた海外の人々に対して、英語で平和のメッセージを伝える活動を行います。

※これら二つの活動は、「ひろしま平和ノート（中学校）」でも紹介されています。



(提供/広島平和記念資料館)

▲海外でのヒロシマ・ナガサキ原爆展の様子

(4) 大学の取組

広島市立大学が建学の基本理念として掲げる「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」という言葉には、科学・文化の発展と世界平和を希求する広島市の意志と、公立大学としての地域貢献への期待が込められています。国際平和文化都市を都市像とする広島市に設置された広島市立大学は、国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部、そして大学院として、国際学研究科、情報科学研究科、芸術学研究科、平和学研究科を有する総合大学です。

また、世界平和と人類の幸福を実現するための研究や提言を行うことを目的として、広島平和研究所を設置しています。
(広島市立大学 Web Site)

●国際平和文化都市・広島の「知」の拠点

広島平和研究所は、世界平和の創造・維持、地域社会の発展に貢献することを目指し、広島市立大学の附置研究機関として1998年（平成10年）4月1日に設立されました。世界で最初の核兵器による被爆を体験した都市としての歴史を背景に、学術研究活動を通じて、核兵器の廃絶に向けての役割を担うとともに、地球社会が直面する諸問題の解決にも寄与し、世界平和の創造・維持と地域社会の発展に貢献する国際的な平和研究機関を目指します。

(広島平和研究所 Web Site)

広島市立大学
広島平和研究所
HIROSHIMA CITY UNIVERSITY
HIROSHIMA PEACE INSTITUTE

(5) 広島平和文化センターの取組



(公財) 広島平和文化センターは、広島市の被爆体験を根底にすえ、その継承を図るとともに、国内外の平和研究機関、関係団体等と連携し、全人类的な視野に立って、平和思想の普及と国際相互理解・協力の増進を図り、世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与することを目的とし設立されました。

同センターは、広島市との連携の下、平和団体や国際交流団体等と協働しながら、被爆体験の継承、平和思想の普及及び国際相互理解・協力や友好親善を推進します。

Point!

私たちと同じ広島市の高校生はどのように平和の発信をしているのだろう。

★広島の高中生はどんな平和の取組をしているのでしょうか。知っていることを書いてみよう。

各学校の平和の取組を知って、あなた自身にできる取組を考えよう。

●基町高等学校

学校全体の取組として、毎年、市中慰霊祭で「基町高校生徒会」として献奉する「折り鶴」を各クラスで作成している。そして、8月6日に、生徒会代表者が全校生徒によって作成された「折り鶴」を学校の敷地内にある慰霊碑に献奉し、祈りを捧げている。

また、創造表現コースでは、広島平和記念資料館の「次世代と描く原爆の絵」事業にボランティアとして参加して有志生徒が「原爆の絵」の制作に取り組むなど、美術を学ぶ中で、「平和」と「文化」について思いを馳せながら日々制作を行っている。



●舟入高等学校

原子爆弾によって676名の犠牲者を出した広島市立高等女学校を前身に持つ学校として、犠牲となった先輩たち、また生き延びた先輩たちの平和への願いを受け継ぎながら、様々な取組を行っている。

毎年8月6日、平和大橋西詰めにある市女慰霊碑で行われる市女慰霊祭に、吹奏楽部、音楽部、放送部、新聞部、生徒会役員生徒及び有志の生徒が参列している。また、式典に向けて、生徒たちと卒業生と一緒に慰霊碑周辺の清掃作業に取り組んでいる。

演劇部においては、原爆劇の創作活動を続けており、当時の市女の生徒たちに起きた悲劇を正しく伝え、彼女たちの思いを継承している。



●広島商業高等学校

毎年12月の第一土曜日と日曜日に学校デパートとして「広島市商ピースデパート」を開催している。生徒一人ひとりが社員、そして株主となり、これまで学んできた商業の知識を生かして、仕入から販売、決算、納税まで行う。「本物の商品、本物のお金、本物のお客様」を扱うことで、商業高校生としてのプライドを持ちながら学習している。

昭和19年、戦時下で、「商業教育は必要ない」と言われ、学校名を「広島市立造船工業高校」に変えられた。その翌年、原爆投下により、生徒270名、教員5名が亡くなった。再び商業教育が受けられるようになったのは、終戦から2年後の昭和22年だった。

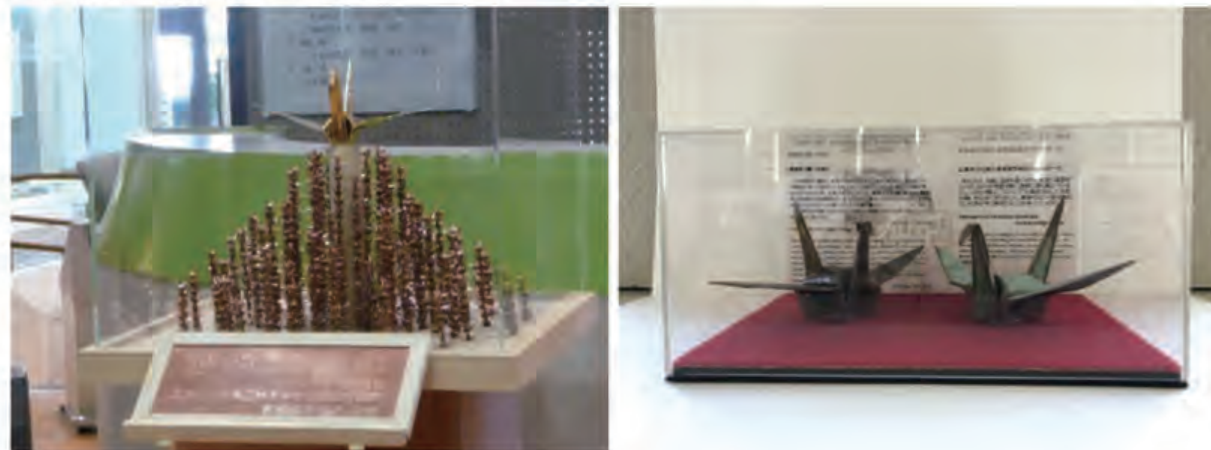
「平和だからこそ商業教育を受けられる」。市商は、そのことをデパートの活動を通じて発信していきたい。その思いから、デパートの名称に「ピース」を入れて「広島市商ピースデパート」と名付けた。これからも、デパートの活動を通して、「平和」への思いを発信し続けるとともに、SDGsやエシカル消費についての意識も持ちながら、活動を進めていく。

また、広島を訪れる修学旅行生に対して、観光コース・秘書コースがこれまでの学びの集大成として平和公園内にてガイド実習を行っている。戦争や原爆の悲惨さ、平和の大切さを実感するとともに、国際平和文化都市ヒロシマに生活する高校生として、何を継承し、どのように発信するべきかを考える。



●広島工業高等学校

市工は、ものづくりの技術を活かして平和を発信する取組を行っている。その内容は、被爆70周年にあたって銅板千羽鶴を製作して「原爆の子の像」に献納（現在、広島中央図書館に展示）、ローマ教皇来広時に、世界平和記念聖堂の屋根材を利用した「銅板折り鶴」を製作し贈呈（令和元年）、広島市商ピースデパートなどで販売した「銅板折り鶴」の売り上げ金の一部を「広島市原爆ドーム保存事業基金」に寄付するなどである。平和の思いを込めて製作した折り鶴は、広島を訪れた外国政府や国連の方、国際NGO関係者など多くの方々に生徒自身が直接手渡ししてきた。



●沼田高等学校

広島で起きた世界初の原子爆弾投下時の市内各所でのいろいろな出来事を、創作劇として発表している。製作段階から、様々な視点からその実態を学び、路面電車の乗務員の被爆体験などを取りあげて思いを込めて上演している。

8月6日の平和記念式典に合わせ、2年生が、平和な世界の実現に向けて考えたことを「平和新聞」としてまとめ、式典当日に平和公園内に展示している。県内のみならず、県外から来られた多くの方も新聞を見てください、改めて平和の尊さを考えられていた。



●美鈴が丘高等学校

美鈴が丘高校では、1学年の総合的な探究の時間で探究活動の一環として平和学習を行っている。平和公園にて「碑巡り」活動を行うという取組もしている。その概要は次のとおりである。まずクラスで八つの班を作

り、班で一つ、平和公園内に設置されている平和記念碑の担当を決定する。次に、その碑の製作過程、製作者、製作年及び時代背景、製作された理由などを調べる。次に、それをもとにポスターと発表用原稿を作成する。当日、ポスターと原稿を持参し、自分たちの碑の前に立ち、ポスターセッションのような形で碑を見に来た班に向けて発表を行う。以上の活動より、生徒は広島市の平和の歴史を探究し、学びを深める。



●広島みらい創生高等学校

社会に貢献しようとする精神を育み、公共心を持ち自立した人材の育成を図ることを教育方針の一つとし、生徒会等を中心に平和に関わる活動に取り組んでいる。海外への募金活動や折り鶴を用いた作品制作などを通じて、平和を希求する心を育てている。



●広島中等教育学校

広島を訪れる外国人観光客に対して、生徒の日頃の英語学習の成果を発揮するため、英語で平和公園を案内する「ガイドボランティア活動」に取り組んでいる。平和公園内を英語で説明するだけでなく、ガイドをしながら平和について意見交換を行い、世界に対して平和のメッセージを発信することの重要性を学んでいる。この活動では、4年生（高校1年生相当）と2年生（中学2年生相当）が一緒に取り組んでいる。



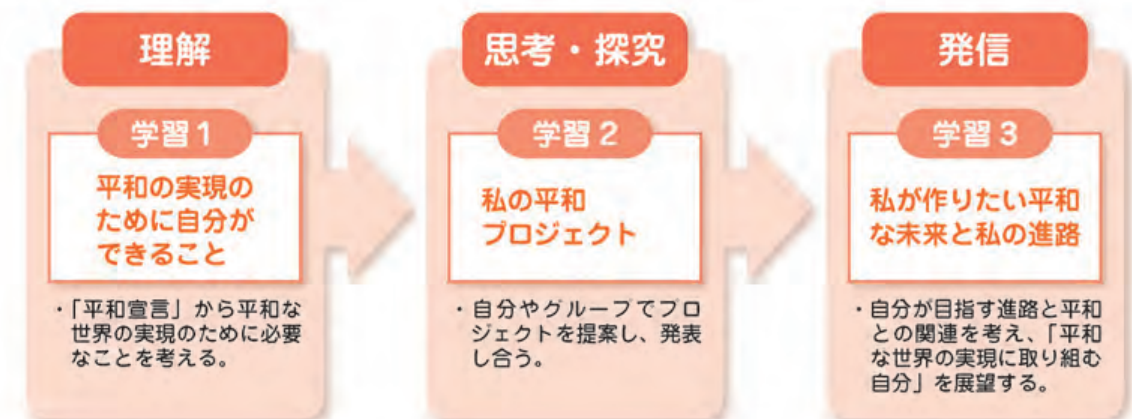
★あなた自身にできる「平和の発信」や「平和への取組」はどんなことがあると思いますか。各校の取組を参考に考えてみよう。

Ⅲ 私たちの平和プロジェクト



「平和な世界を創っていくために、自分に何ができるか、何をすべきか」を考えてみよう。
 その一つとして、「平和な世界の実現」に主体的にかかわるための「私たちの平和プロジェクト」を提案してみよう。
 また、これまでの平和学習を振り返り、自分の進む道と平和との関連について考え、将来を展望しよう。

◆学習の流れ



学習 1 平和の実現のために自分ができること

- 「平和宣言」から、平和な世界の実現のためのキーワードを理解しよう。

平和宣言

1945年8月6日、広島は一発の原子爆弾により破壊し尽くされ、「75年間は草木も生えぬ」と言われました。しかし広島は今、復興を遂げて、世界中から多くの人々が訪れる平和を象徴する都市になっています。

今、私たちは、新型コロナウイルスという人類に対する新たな脅威に立ち向かい、闘っていますが、この脅威は、悲惨な過去の経験を反面教師にすることで乗り越えられるのではないのでしょうか。

およそ100年前に流行したスペイン風邪は、第一次世界大戦中で敵対する国家間での「連帯」が叶わなかったため、数千万人の犠牲者を出し、世界中を恐怖に陥れました。その後、国家主義の台頭もあって、第二次世界大戦へと突入し、原爆投下へと繋がりました。

こうした過去の苦い経験を決して繰り返してはなりません。そのために、私たち市民社会は、自国第一主義に拠ることなく、「連帯」して脅威に立ち向かわなければなりません。

原爆投下の翌日、「橋の上にはズラリと負傷した人や既に息の絶えている多くの被災者が横たわっていた。大半が火傷で、皮膚が垂れ下がっていた。『水をくれ、水をくれ』と多くの人が水を求めていた。」という惨状を体験し、「自分のこと、あるいは自国のことばかり考えるから争いになるのです。」という当時13歳であった男性の訴え。

昨年11月、被爆地を訪れ、「思い出し、ともに歩み、守る。この三つは倫理的命令です。」と発信されたローマ教皇の力強いメッセージ。

そして、国連難民高等弁務官として、難民対策に情熱を注がれた緒方貞子氏の「大切なのは苦しむ人々の命を救うこと。自分の国だけの平和はありえない。世界はつながっているのだから。」という実体験からの言葉。

これらの言葉は、人類の脅威に対しては、悲惨な過去を繰り返さないように「連帯」して立ち向かうべきであることを示唆しています。

今の広島があるのは、私たちの先人が互いを思いやり、「連帯」して苦難に立ち向かった成果です。実際、平和記念資料館を訪れた海外の方々から「自分たちのこととして悲劇について学んだ。」「人類の未来のための教訓だ。」という声も寄せられる中、これからの広島は、世界中の人々が核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて「連帯」することを市民社会の総意にしていく責務があると考えます。

ところで、国連に目を向けてみると、50年前に制定されたNPT（核兵器不拡散条約）と、3年前に成立した核兵器禁止条約は、ともに核兵器廃絶に不可欠な条約であり、次世代に確実に「継続」すべき枠組みであるにもかかわらず、その動向が不透明となっています。世界の指導者は、今こそ、この枠組みを有効に機能させるための決意を固めるべきではないでしょうか。

そのために広島を訪れ、被爆の実相を深く理解されることを強く求めます。その上で、NPT再検討会議において、NPTで定められた核軍縮を誠実に交渉する義務を踏まえつつ、建設的対話を「継続」し、核兵器に頼らない安全保障体制の構築に向け、全力を尽くしていただきたい。

日本政府には、核保有国と非核保有国の橋渡し役をしっかりと果たすためにも、核兵器禁止条約への署名・批准を求める被爆者の思いを誠実に受け止めて同条約の締約国になり、唯一の戦争被爆国として、世界中の人々が被爆地ヒロシマの心に共感し「連帯」するよう訴えていただきたい。また、平均年齢が83歳を超えた被爆者を始め、心身に悪影響を及ぼす放射線により生活面で様々な苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、その支援策を充実するとともに、「黒い雨降雨地域」の拡大に向けた政治判断を、改めて強く求めます。

本日、被爆75周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和2年（2020年）8月6日

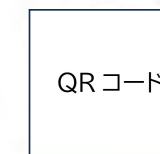
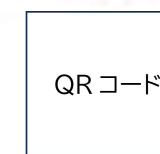
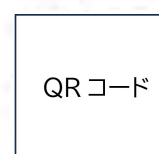
広島市長 松井 一實

- 「平和宣言」や「平和への誓い」を映像でみてみよう。

令和2年 平和宣言（日本語）

Peace Declaration 2020 (English)

平和への誓い



平和首長会議 Mayors for Peace

1982年6月24日、荒木武 広島市長（当時）は、米国・ニューヨーク市の国連本部で開催された第2回国連軍縮特別総会において、世界の都市に国境を越えて連帯し、共に核兵器廃絶への道を切り開こうと呼び掛けました。また、広島・長崎両市は、この呼び掛けに賛同する都市（自治体）で構成する機構として、世界平和連帯都市市長会議（現・平和首長会議）を設立しました。1991年には、国連経済社会理事会のNGOに登録されています。

※2001年8月5日、「世界平和連帯都市市長会議」から「平和市長会議」に、2013年8月6日に「平和首長会議」に名称変更しました。

（平和首長会議は、「ひろしま平和ノート（中学校）」でも紹介されています。）

（平和首長会議 Web Site）

- ★平和な世界の実現のために、あなた自身は誰との繋がりを大切にしたいですか。私たちに必要な連帯とはどのようなものなのでしょうか。グループで考えてみよう。

学習 2 私の平和プロジェクト

持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、まさに世界の国々が「連帯」して達成しようと定めた目標です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



●SDGsが掲げる17のGOAL（目標）にはどのようなものがあるのだろう。

- | | | |
|-----------------|-----------------------|----------------|
| ① 貧困をなくそう | ② 飢餓をゼロに | ③ すべての人に健康と福祉を |
| ④ 質の高い教育をみんなに | ⑤ ジェンダー平等を実現しよう | |
| ⑥ 安全な水とトイレを世界中に | ⑦ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに | |
| ⑧ 働きがいも経済成長も | ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう | |
| ⑩ 人や国の不平等をなくそう | ⑪ 住み続けられるまちづくりを | ⑫ つくる責任、つかう責任 |
| ⑬ 気候変動に具体的な対策を | ⑭ 海の豊かさを守ろう | ⑮ 陸の豊かさを守ろう |
| ⑯ 平和と公正をすべての人に | ⑰ パートナリシップで目標を達成しよう | |

★これらを達成するために世界中で行われている取組について調べ、「平和プロジェクト」作成のヒントにしよう。

●平和プロジェクト作成の手順

- ① 自分にとっての「平和」とは何かを考え、その実現に向けた取組を考えます。
 - ・これまでの学習を振り返り、自分にとっての「平和」とは何かを考えます。
 - ・自分自身が、主体的かつ持続的に取り組める活動を、具体的に考えます。
 - *主体となるのはだれか。個人？ グループ？
 - *活動の目的・内容・場所・期間・方法は？
 - *活動するために必要なものは何か。
 - *活動の成果をどう周囲（世界）に還元・発信していくか。



- ② グループで発表し合い、意見交換します。
 - ・グループ内で自分の提案を発表し合います。
 - ・それぞれの提案について、質疑応答を行い、感想・意見・改善点を交流します。



- ③ グループ内でプロジェクト案を一つにまとめます。
 - ・グループ内での意見交換を経て、グループとしてのプロジェクト案を一つにまとめます。
 - ・具体的な提案を作成します。

私の平和プロジェクト 「グループ案をまとめよう」

- プロジェクト名
- プロジェクトの目的
- プロジェクトの主体
- 活動内容・方法
- 活動場所や活動期間
- 必要なもの（必要な経費）
- 活動の成果の還元・発信方法
- その他

巻末資料

小学校や中学校で学習したことを振り返ろう。



1 原子爆弾の投下とその被害

●原子爆弾が投下された日時

広島市
1945 (昭和20) 年 8月6日 午前8時15分

●原子爆弾が炸裂した日時

長崎市
1945 (昭和20) 年 8月9日 午前11時2分

●被害の状況

爆発の瞬間、非常に強い熱線と放射線が四方へ出されました。また、熱によって周りの空気が大きくふくらみ、爆風となって広がりました。そして、これら三つが複雑に作用して大きな被害をもたらしました。

① 熱線による被害

原子爆弾が爆発したときの爆発点の温度は数百万度となり、空中に発生した火球は、1秒後には直径400mを超える大きさとなりました。

この火球から四方に出された熱線は、爆発0.2秒後から3秒後までの間、地上に強い影響を与え、爆心地周辺の地表面の温度は3,000～4,000度にも達しました。(鉄の溶ける温度は約1,500度)



(撮影：米軍 提供 / 広島平和記念資料館)
▲万代橋の欄干の影

② 爆風による被害

原子爆弾が爆発した瞬間、爆発点は圧力が高まり、周りの空気が急にふくらんで、爆風となりました。

爆心地から半径2kmまでの地域では、ほとんどの木造の建物は壊され、鉄筋コンクリートの建物は、つぶれなかった場合でも、窓や家具などが吹き飛ばされ、その後内部は全て焼けてしまうなどの大きな被害を出しました。

爆風により、人々は吹き飛ばされ、即死した人、けがをした人、倒れた建物の下敷きになって亡くなった人、下敷きになったまま焼け死んだ人がたくさんいました。



(撮影：川本俊雄 提供 / 川本祥雄)
▲爆風で傾いた時計店

③ 放射線による被害

原爆が爆発して1分以内に「初期放射線」が大量に放出されました。特に、爆心地から1km以内で直接、放射線を受けた人は、ほとんど亡くなりました。

さらに、そのあとも「残留放射線」が地上に残りました。このため、直接被爆しなかった人でも、救援・救護活動や家族をさがすために爆心地近くに行って放射線を受け、なかには病気になったり亡くなりたりする人も出ました。また、爆発により巻き上げられた、放射性物質を含んだチリやスス、黒い雨となって降りました。雨の中には放射性物質が含まれており、この地域で井戸水を飲んでいたり、そのあと3か月にもわたって下痢をしたそうです。

(広島平和記念資料館 学習ハンドブック)

2 広島平和記念都市建設計画のあゆみ

◆広島市復興のあゆみ (略年表)

一九四五(昭和二〇)年	終戦 原子爆弾投下
一九四六(昭和二一年)	広島市復興審議会設置 広島復興都市計画の決定
一九四九(昭和二四年)	広島復興都市計画の決定(用途地域) 平和記念公園の設計コンペ 広島平和記念都市建設法公布
一九五二(昭和二七年)	広島平和記念都市建設計画の決定 (公園、緑地、記念施設等)
一九五五(昭和三〇)年	平和記念公園内の平和記念館、平和記念資料館、公会堂が完成
一九五七(昭和三二年)	供木運動の展開(一九五八(昭和三三年)都市計画道路比治山庚午線(平和大通り)の整備完了)
一九六七(昭和四二年)	原爆ドーム保存工事を完了(第一次)
一九六八(昭和四三年)	(新)都市計画法の制定
一九七二(昭和四七年)	広島園都市計画区域内の「市街化区域」と「市街化調整区域」の都市計画決定
一九七三(昭和四八年)	用途地域(8種類)の都市計画決定
一九八〇(昭和五五年)	広島市が政令指定都市に移行
一九九〇(平成二年)	原爆ドーム保存工事を完了(第二次)
一九九六(平成八年)	(新)用途地域(12種類)の都市計画決定
二〇〇三(平成十五年)	原爆ドーム保存工事を完了(第三次)
二〇一五(平成二七年)	被爆七〇周年
二〇一六(平成二八年)	米国のオバマ大統領が広島を訪問 原爆ドーム保存工事を完了(第四次)
二〇一九(平成三一年)	広島平和記念都市建設法制定七〇周年
二〇二一(令和三年)	原爆ドーム保存工事を完了(第五次)

(文・略年表は広島市「ひろしまの復興」をもとに作成)

3 原爆ドームが世界遺産へ

原爆ドームは、被爆前は「広島県産業奨励館」という名前で、県内の物産品が展示販売され、博物館や美術館としても利用されていました。

原爆ドームの保存については、賛成する人たちばかりではありませんでした。建物が壊れる危険もありました。また、被爆のつらい思い出につながるということから、「取り壊す」という考えがあったのです。

しかしながら、1歳の時に被爆し、16歳で白血病でなくなった楳原ヒロ子さんの日記をきっかけに、「原爆ドームだけが原子爆弾の恐ろしさを伝え、二度と繰り返してはならないと訴えかけているのだ。」という思いから、「保存しよう」という声が高まり、1966(昭和41)年に広島市議会で原爆ドームの保存を決定しました。

そして、「原爆ドーム保存募金」が始まり、広島市をはじめ国の内外から募金が集まりました。この募金により、1967(昭和42)年に保存工事を始めることになりました。

原爆ドームを保存・継承していくために、世界遺産への登録を求める声が高まり、1996(平成8)年12月にユネスコの世界遺産として登録されました。



(撮影：寄贈 / H.J.ピーターソン 所蔵 / 広島平和記念資料館)
▲被爆後の様子

4 平和首長会議

1982年6月24日、荒木武 広島市長(当時)は、米国・ニューヨーク市の国連本部で開催された第2回国連軍縮特別総会において、世界の都市に国境を越えて連帯し、共に核兵器廃絶への道を切り開こうと呼び掛けました。また、広島・長崎両市は、この呼び掛けに賛同する都市(自治体)で構成する機構として、世界平和連帯都市市長会議(現・平和首長会議)を設立しました。1991年には、国連経済社会理事会のNGOに登録されています。

※2001年8月5日、「世界平和連帯都市市長会議」から「平和市長会議」に、2013年8月6日に「平和首長会議」に名称変更しました。

(平和首長会議 Web Site)